

まちづくり推進組織の会議記録

会議の名称	第15回（平成19年度第4回）かごしままちづくり会議
開催日時	平成19年11月13日（火）10:00～12:00
開催場所	東別館11階 1101・1102会議室
出席者 （委員） （市職員）	委員15名、市職員5名 宮廻会長、津曲副会長、西園委員、時村委員、今別府委員、四元委員、 梶島委員、岩元委員、岡本委員、永山委員、 奈良迫委員、西委員、前田委員、山本委員 新地企画部長、黒木政策推進課長、原政策推進課主幹、その他関係職員
傍聴者数	0名
事務局	鹿児島市企画部政策推進課
会次第	1 開 会 2 報 告 （1）第14回（平成19年度第3回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について （2）第14回（平成19年度第3回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項） （3）第15回（平成19年度第4回）地域まちづくり会議等について 3 協 議 （1）3カ年のとりまとめについて 4 その他 5 閉 会
会議の概要	1 開 会 2 報 告 （1）第14回（平成19年度第3回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について ○ 事務局から、第14回（平成19年度第3回）かごしままちづくり会議における意見等の検討状況について説明。 （2）第14回（平成19年度第3回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況について（全市的な事項） ○ 事務局から、第14回（平成19年度第3回）地域まちづくり会議等における意見等の検討状況のうち全市的な事項5項目について報告。 （3）第15回（平成19年度第4回）地域まちづくり会議等について ○ 事務局から、第15回（平成19年度第4回）地域まちづくり会議等の概要について報告。 3 協 議 （1）3カ年のとりまとめについて

- 事務局から、3カ年のとりまとめについて、前回の委員による「地域会議を踏まえながら、合併後のまちづくりについて協議を重ねてきたということが、わかるような意見や表現にできないか。」「かごしま会議がどういう思いでやってきたのかということを出してほしい。」という指摘に対して、対応した旨の説明あり。
 - 会長から、指摘した委員はどうかとの発言あり。
 - 指摘した2人の委員から、異議なしとの発言あり。
 - 会長から、安心安全についてはどうかとの発言あり。
 - 委員から、「犯罪に遭わない取り組み強化」について、危ないところに近寄らないよう、意識を高めていくことも大事なので、「一人一人の防犯意識と知識を高めていくことと、」というふうにしたほうがいいのではないかと発言あり。
 - 委員から、発言の趣旨は、未然に防ぐということ。委員の指摘どおりいいのではとの発言あり。
 - 会長から、委員の指摘どおりに修正したいとの発言あり。
 - 委員から、「休職世帯への保育所優先入所等の配慮」について、対象が限定的されるという印象を持つため、広く受け止められる意見にしたほうがいいとの発言あり。
 - 委員から、「休職世帯への」を削除すればいいのではとの発言あり。
 - 委員から、鹿児島市での市民参画条例の前文に、ぜひ「旧松元町、旧郡山町・・・の各地域の特色を生かしたかたちのまちづくりを進めていく」という文言を付け加えて欲しい。今後まちづくりを進めるうえで、旧鹿児島市との画一化を防ぐことになる。各地域の特色を活かしたまま、新しい鹿児島市を作ることにつながるのではないかと発言あり。
 - 会長から、条例なので市議会の了解も必要であるから厳しいのでは。市民局に「まちづくり会議で、こういうご意見があったので、今度変更する際はご検討いただきたい」とお伝えするのはいいが、すぐ修正するのは難しいのではないかと。ご意見があったということをも市民局に伝えたいと思うとの発言あり。
 - 委員から、大変いい意見であると思うが、逆にこの会議のもう一つでテーマである均衡ある発展を考えると地域イズムを残してしまっているのか。郡山地域の特色を決め付けていいのか。逆に旧地域と旧市というブロック・考え方をなくして、鹿児島市を4つか5つの東西南北のブロックに分けるのもいいのではないかと。鹿児島市北部で、郡山、吉田、小山田というブロックにしてもいいのではないかと意見も出た。地域特性を活かすというのもいいが、今後の発展を考えるとひきずるのは疑問であるとの発言あり。
 - 会長から、一体化がまずあって、均衡ある発展がある。新しい鹿児島市の中をブロック分けして、旧町と旧市が隣接するところは一緒になる。新しい鹿児島市の中の地域の違いがあるので、それをベースにして、ある程度の地区別に区分けするのがいいのではないかと。これからのワークショップも、旧五町ベースでなく、新しい鹿児島市の中を大きく分けて、旧町と旧市が一緒になる感じがいいのではと思うとの発言あり。
- また、地域会議の状況について、報告願うとの発言あり。

- 委員から、吉田地域は市域の北部に位置し、周りを山々に囲まれ、溪流や緑豊かな自然環境に恵まれた田園地域である。一方、過疎化・高齢化が進んでいる地区もあり、また平成5年には未曾有の災害を受けた経験を持っている。こうした地域の特性や長い歴史の中で育まれた伝統・文化といったものにもとづいて協議を重ねてきたとの発言あり。
- 委員から、桜島地域のまちづくりについて自由闊達に協議し、意見や提言を行ってきた。時の経過とともに地域のまちづくりも進み、また、会議の議論も深まりを見せるなど、一定の役割を果たしてきたのではないかと。この会議により、地域が自ら地域の課題を考え解決していこうという機運・意識が高まってきたのではないかと感じを受けている。このことが、今後、自主的な活動につながっていくことを期待しているとの発言あり。
- 委員から、喜入地域では、テーマを設けて、「交通網の整備促進」、「農業・観光振興」、「自治組織と住民自立」の3つにテーマに絞って、協議を進めてきた。新市まちづくり計画にうたわれている事務事業等の確実な実現に向けて、当局としても努力していただきたいとの発言あり。
- 委員から、将来を見据えた松元地域のまちづくりについて、協議を重ねてきた。報告書を参考に地域の特色を生かした、地域のまちづくりが、地域の活性化につながり、ひいては、市全体の発展につながるものと思っている。
新市まちづくり計画に盛り込まれる地域の政策が、確実に実行されることが、住民が安心することだと思うし、また、合併の大きな意義があると思っているとの発言あり。
- 委員から、郡山地域まちづくり会議のまとめとして、合併に伴って、このような会議自体を設置したことを大きく評価したい。当初、公民館に対する補助金がなくなるといった、黒船到来のような大騒ぎで、合併に対する不安、戸惑いから、会議自体はスタートした。だが、この会議の一つのテーマである、速やかな一体化について、3年間を経て、行政当局の努力もあり、かなり進んできたのではないかと肌を感じている。今後は、一体化からさらに進めて、市民一人ひとりが一体感を共有できるまちづくりを進めていただければと希望している。
まちづくり会議全体で約90人以上の委員が、3年間にわたって、全ての行政サービスに議論をするというのはとてつもなくスケールが大きい会議だったと思っている。これを機に、行政の各部局がすべてに目を通し、私たちの鹿児島市に対する希望と夢を汲み取って、それらをヒントに今後の施策を進めていただけたら、もう一つのテーマである均衡ある発展に結びつくことを確信している。
また、地域づくり、まちづくりは、行政に頼るのではなく、住民一人ひとりが自ら汗と知恵を出しあって取り組むものだという機運がかなり芽生えている。また、そういった機運から生まれた具体的な取組みもいくつかスタートしている。個人的なことだが、この会議を経験させていただき、一地域住民として、地域で何ができるのか、何をすべきかを模索しながら、一つでも行動に移せればと思っている。地域の会議の委員の皆さんも同様の意見をたくさんいただいたとの発言あり。

- 会長から、地域会議の状況について、お話いただいた。その結果は報告書に盛り込まれている。11月27日に、5地域まちづくり会議の会長と、森市長に報告する予定にしている。先ほどの2点について修正したいが、最終的な調整を含め、正副会長に一任願うとともに、報告書案について了承願いたい。との発言あり。
- 全委員から了承された。

4 その他

- 会長から、他の委員の皆さんから、この会議を振り返っての感想等をご発言いただきたいとの発言あり。
- 委員から、旧5町の良さを、現地に足を運ばせていただき感じたことは、何よりも自分の宝になった。本当にいい共有感の醸成の場であった。むしろ地域の中の特質を見て力強く感じた。また議論を通して、昔の町境、市境というのが、意識の中で下がってきていると実感した3年間でもあった。これからは大きな鹿児島市の中から、日本あるいは世界に向けての情報発信ができればいいと思うとの発言あり。
- 委員から、各地域を実際に見て回って、改めて鹿児島市の大きさというものを感じた。この会議は今回で一端終わるが、やはり私たち地元の間がまちを作っていかなければいけないということには変わりはないので、この活動自体は様々な面で別の形で出てきて、市民参画型のまちができていけばいいと思うとの発言あり。
- 委員から、それぞれの地域性というものは大事である。一体化といえどもそれぞれに地域というものはあるのだから、それをもとにして一体化を図っていくというのが大事である。旧市内でもやはり地域性がある。谷山は谷山、吉野は吉野という考え方はある。いかにして一体化していくかはずっと課題であるとの発言あり。
- 委員から、以前、1つになるということで話し合いを始める際は、全てにかけて旧鹿児島市が先にするべきと言われたが、最近はそういうことはあまり聞かれなくなった。こういう会議によってお互いの理解を深められたからではないかとの発言あり。
- 委員から、合併したこの先のことがとっても大事になってくる。23年には九州新幹線が全線開通するし、受け皿は鹿児島市だということも含めて考えていかなければならないと思っている。また、地域住民が意識を高めあって、わたしたちに何ができるかを意識しながら、行政まかせではない部分をもっと高めていかなければならないとの発言あり。
- 委員から、各地域に連れて行っていただいて、合併した土地は大変自然豊かな素晴らしい農村地であったと感じた。今後、各地域の美しさ、素晴らしさなどを、グリーンツーリズムなどを通して、情報発信していただきたいとの発言あり。
- 委員から、地域会議の会長から、様々な不安や懸念が払拭されたというふうについて、この会議の意義があったのではないかと思う。合併は、鹿児島市が生まれ変わるチャンスであると思うとの発言あり。

- 委員から、鹿児島市の場合、歴史、文化、桜島というすばらしいシンボルもあり、品格があるまちだと思う。これからの鹿児島市のまちづくりのあり方としては、鹿児島市の持つ品格をどう磨いて、より美しい町に変わっていくかを考えるのが重要だと思うとの発言あり。
- 委員から、単に農村部の暮らしのレベルを都市に近づけるというのではなく、都市が農村に学び、農村が都市に学びということで、お互いの良さを生かしながら、幸せ感のあるまちに、なっていったらいいのではないかとの発言あり。
- 会長から、地域まちづくり会議で、住民の方たちが自分たちのことは自分たちで考えてやろうという機運が盛り上がったということなので、これもこの会議の非常に大きな財産だったのではないか。こういう住民の方々の前向きな火を消さないように、何らかのかたちで引き継いでいって欲しい。弱さを補いあって、強さをできるだけ伸ばしていくという、シナジー効果を出すという心構えで、合併後のまちづくりをしていくことが重要ではないかと思うが、各まちづくり会議の会長、各委員のおかげで、そういう方向に1歩、2歩、進めたのではないかと思っている。みなさんのおかげで、新生鹿児島市の船出にあたって、かなり大きな貢献ができたのではないかと思っている。皆さんの意見・提言が今後とも市政の運営に役立ちますよう祈念して当会議を終了したいと思うとの発言あり。

5 閉 会

= 以上 =